

ほろり色ん



大崎短歌会

兼題『自由』

朝夕は秋の気配も日中は

真夏さながら今日も部屋籠り

坂元つる子

良き友と短歌詠ずる秋日和

午後のひととき野方の草庵

実吉安仁

霧深き散歩の道にひぐらしの

今とばかりに時惜しみつつ

井元かず子

バーすでに百九十と四センチ

飛び魚となり選手越えゆく

山下海征

熱海富士土俵あがれば満員の

国技館沸く勝っても負けても

穂園芳江

木洩れ日の中より出できし揚羽蝶

秋の盛りの暑き日の夕

本後淑子

渾身の産声まとひ生れし児の

秋には清けき言の葉拾ふ

馬場みさ

薩摩郷句

兼題『床様・床様あ』

必勝の 床様へ並るだ 焼酎結び

(唱) よっしゃ頑張ろち 漲い力

諸木小春

床様ん 軸く掛けなえつ 正月待つ

(唱) 良か一年に なりますように

西ノ園ひらり

退職めたなあ 淋し床様あ 歳暮も無し

(唱) 我が買っせえ 並べっ見ろかい

北村虎王

床様な 万年青を活けつ 福く願ごっ

(唱) 気も引き閉まっ お屠蘇どん待っ

二見愚楽満

床様じゃ 魔王と伊蔵が 威張つちよっ

(唱) 無もんな無どち 言わんばっかい

遠矢耐多

床様も 年に一度は 餅つ貫っ

(唱) 二段重ねい 橙蜜柑どん乗せっ

上窪小絵

初の賞を 床様め供た 皆勤賞

(唱) 良かったねえ また頑張れよ

上村牛歩

飲んもせん 焼酎を床様へ 並べちよっ

(唱) 在いせかすれば 心ほかほか

満石うらら

床様に 足しめ向くい息子を 叱っ躩

(唱) 罰があたっち 厳しか母御

長重リリー

床様ん 大床造いが 晴れをしっ

(唱) 客きほめられっ 嬉しか爺様

藤元鬼瓦

床様い 毎日見られっ 縮ん嫁

(唱) 堂々としやい 長生かせんど

諸木美舟